

# 古記録 文献目録 【個別記録 院政期編】

2003.12.03 作成  
2011.07.21 更新

- |                     |                   |                  |
|---------------------|-------------------|------------------|
| 1. 為房卿記 (藤原為房)      | 2. 時範記 (平時範)      | 3. 後二条師通記 (藤原師通) |
| 4. 中右記 (藤原宗忠)       | 5. 長秋記 (源師時)      | 6. 白河上皇高野御幸記     |
| 7. 殿曆 (藤原忠実)        | 8. 永昌記 (藤原為隆)     | 9. 法性寺殿御記 (藤原忠通) |
| 10. 朝隆卿記 (藤原朝隆)     | 11. 知信朝臣記 (平知信)   | 12. 兵範記 (平信範)    |
| 13. 台記 (藤原頼長)       | 14. 教長卿記 (藤原教長)   | 15. 山槐記 (藤原忠親)   |
| 16. 平治元年十月記 (藤原家通か) | 17. 顯広王記 (顯広王)    | 18. 玉葉 (藤原兼実)    |
| 19. 安倍泰親朝臣記 (安倍泰親)  | 20. 愚昧記 (藤原実房)    | 21. 吉記 (藤原経房)    |
| 22. 仲資王記 (仲資王)      | 補1. 禅中記 (藤原長方)    | 補2. 愚葉記 (藤原宗能)   |
| 補3. 定長卿記 (藤原定長)     | 補4. 宸筆御八講記 (藤原公教) |                  |

## 1. 『為房卿記』文献目録

### 【活字本】

- 「堀河院昇霞記」(『続群書類従』)  
駒沢大学大学院史学会古代史部会編『古記録叢書Ⅰ 翻刻為房卿記』(駒沢大学大学院史学会古代史部会)  
『妙法院史料』5古記録・古文書(吉川弘文館)  
『神道大系 文学編 参詣記』(神道大系編纂会)  
菊池紳一「尊経閣文庫所蔵『為房卿記』逸文について」(『季刊ぐんしょ』59、2003)

### 【影印本】

- 「勤修寺大蔵卿藤為房卿記」(『歴代残闕日記』臨川書店)  
『陽明叢書 平記・大府記・永昌記・愚昧記』(思文閣出版)

### 【索引】

- 山形県立米沢女子短大日本史学科令義解輪読会編「為房卿記索引稿人名篇(あ～こ)」(『米沢史学』5、1989)  
米沢史学会編「為房卿記索引稿 人名編(2)」(『米沢史学』6、1990)

### 【日記研究】

- 田島 公 「『永保二年土師興任問注申詞記』について 『為房卿記』紙背文書の紹介」(『日本歴史』480、1988)  
田島 公 「為房卿記」(『日本歴史「古記録」総覧』上、新人物往来社、1989)  
佐藤全敏 「『為房卿記』と政務文書」(五味文彦編『日記に中世を読む』吉川弘文館、1998)

### 【記主とその周辺】

- 橋本義彦 「勤修寺流藤原氏の形成とその性格」(『日本古代史論集』下、吉川弘文館、1962のち『平安貴族社会の研究』吉川弘文館1976)  
久曾神昇 『平安時代仮名書状の研究』(風間書房、1968)  
武久 堅 「平家物語における院政期中級貴族の位置 勤修寺為房とその子孫」(『中世文学』18、1973)  
所 功 「『撰集秘記』の基礎的研究」(『日本学士院紀要』35-3、1978)  
所 功 「筆者為房の略伝」(『史聚』10、1979のち『宮廷儀式書成立史の再検討』国書刊行会2000)  
伊藤 博 「藤原為房妻の仮名書状について」(『言語と文芸』90、1980)  
所 功 『京都御所東山御文庫本撰集秘記』(国書刊行会、1986)  
木本好信 「藤原為房 その生涯と日記『大府記』」(『米沢史学』3、1987のち『平安朝官人と記録の研究』おうふう2000)  
京都大学文学部博物館編『公家と儀式』(思文閣出版、1991)  
高橋秀樹 「中世前期の祖先祭祀と二つの「家」」(『日本史研究』381、1992のち『日本中世の家と親族』吉川弘文館1996)  
榎 道雄 「夜の閑白と院政」(『古代文化』47-9、1995のち『院近臣の研究』続群書類従完成会2001)

## 2. 『時範記』文献目録

### 【活字本】

- 早川庄八 「時範記 承德三年春」(『書陵部紀要』14、1952)  
 早川庄八 「時範記 補遺」(『書陵部紀要』17、1965)  
 宮崎康充 「時範記 承德三年夏」(『書陵部紀要』32、1980)  
 宮崎康充 「時範記 永長二年冬上」(『書陵部紀要』38、1987)

【影印本】

「右大弁平時範朝臣記」(『歴代残闕日記』臨川書店)

【日記研究】

- 木本好信 「『時範記』と平時範の一考察」(『国書逸文研究』16、1985のち『平安朝日記と逸文の研究』桜楓社1987)  
 吉岡真之 「時範記」(『日本歴史「古記録」総覧』上、新人物往来社、1989)  
 木本好信 「『時範記』」(『甲子園短期大学文化情報学科研究報告』2～、2007～)

【記主とその周辺】

- 阿部 猛 「受領」(『摂関政治』教育社、1977)  
 吉田靖雄 「平時範・実親父子の生涯と信仰」附、心覚」(『歴史研究』21、1983)  
 宮崎康充 「平時範に関する覚書」(『書陵部紀要』41、1990)  
 隴谷 寿 「受領の世界」(『集英社版日本の歴史 王朝と貴族』集英社、1991)

### 3. 『後二条師通記』文献目録

【活字本】

『大日本古記録 後二条師通記』(岩波書店)

【日記研究】

- 厚谷和雄 「後二条師通記」(『日本歴史「古記録」総覧』上、新人物往来社、1989)  
 上杉和彦 「後二条師通記」(『日本「日記」総覧』新人物往来社、1994)  
 川崎恵津子 「後二条師通記」に見られる文体の形成過程」(『国語と国文学』79-9、2002)  
 柳原恵津子 「(調査報告)『後二条師通記』冒頭部の使用語彙 本記と別記という観点から」(『日本語学論集』創刊号、2005)  
 中野栄夫 「『後二条師通記』を読む」その1～その8」(『日本社会史研究』67～81、2006～09)  
 中丸貴史 「漢文日記の生成 『後二条師通記』二つの本文」(『日本文学』56-9、2007)  
 柳原恵津子 「『後二条師通記』冒頭部の使用語彙 本記と別記の比較という観点から」(『日本語学論集』3、2007)  
 中丸貴史 「『後二条師通記』寛治五年「曲水宴」関連記事における唱和記録 「劉公何必入天台」を始発として」(『海を渡る天台文化』/勉誠出版、2008)  
 中丸貴史 「『後二条師通記』における漢籍引用 日記叙述とテキスト生成」(『学習院大学人文科学論集』17、2008)  
 中丸貴史 「漢文日記における語りと筆録 『後二条師通記』を中心として」(『中古文学』84、2009)  
 小野泰央 「『後二条師通記』の漢詩文表現 古記録の記述と時令思想」(『中央大学国文』52、2009)  
 柳原恵津子 「『後二条師通記』冒頭部三力年分の「本記」と「別記」について」(『古典語研究の焦点』武蔵野書院、2010)  
 中丸貴史 「『後二条師通記』寛治五年の「本記」「別記」」(『史聚』43、2010)  
 中丸貴史 「『後二条師通記』の伝本と受容」(『日本漢文学研究』5、2010)

【記主とその周辺】

- 高群逸枝 「平安鎌倉室町家族の研究」(国書刊行会、1985)  
 木本好信 「藤原師通と大江匡房」(『山形県立米沢女子短期大学紀要』20、1985)

### 4. 『中右記』文献目録

【活字本】

- 史料通覧 『中右記』全7冊(内外書籍)  
 増補史料大成 『中右記』全7冊(臨川書店)  
 大日本古記録 『中右記』(岩波書店)  
 尾上陽介 「東山御文庫本『除目部類記』所引『法性寺殿御記』『中右記』逸文」(『禁裏・公家文庫研究』2

思文閣出版、2006)

【影印本】

「中院右大臣藤宗忠公記」(『歴代残闕日記』臨川書店)  
図書寮善本叢刊『中右記』1巻(コロタイプ複製、美術書院)  
陽明叢書『中右記』全4冊(思文閣出版)

【索引】

佐々木令信編『中右記人名索引』全2冊(臨川書店)

【日記研究】

戸田芳実 『中右記 躍動する院政時代の群像』(そしえて、1979)  
星野 恒 「歴史記録考」(『史学叢説』第1集、1909、富山房)  
木本好信 「『中右記』逸文二題(拾遺・覚書)」(『国書逸文研究』14、1984)  
曾我良成 「『中右記』における“近代”の意味について」(『古代文化』33-5、1981)  
橋本義彦 「中右記と台記」(『国文学解釈と鑑賞』37-4、1972、のち『平安貴族社会の研究』吉川弘文館1976)  
石井正敏 「陽明文庫本『中右記』管見」(『陽明叢書記録文書編月報』18、1988)  
戸田芳実 「中右記」(『日本歴史「古記録」総覧』上、新人物往来社、1989)  
吉田早苗 「『中右記』と九条家」(『陽明叢書記録文書編月報』21、1989)  
神谷正昌 「中右記」(『古記録と日記』上、思文閣出版1993)  
米田雄介 「中右記」(『日本「日記」総覧』新人物往来社、1994)  
佐藤 信 「歴史物語と記録 中右記」(『歴史物語講座』7、風間書房1998)  
吉田早苗 「中右記部類について」(『古代中世史料学研究』下、吉川弘文館1998)  
所 京子 「中右記部類 斎宮群行記」(『国書逸文研究』6、1981)  
杉本 理 「『中右記』 薨卒伝について」(『古代文化』45-1、1993)  
佐々木博康 「『中右記』にみえる天亡について」(『岩手史学研究』76、1993)  
所 京子 「『中右記部類』 斎宮群行記 解説と訓読」(『岐阜聖徳学園大学紀要』(教育・外国語)37、1999)  
吉田早苗 「『中右記部類』 目録」(田島公編『禁裏・公家文庫研究』1、思文閣出版2003)  
古池由美 「『中右記』 解釈の試み 寛治元年正月元日・二日・三日」(『安田女子大学国語国文論集』35、2005)

【記主とその周辺】

河野房雄 『右府藤原宗忠と日野法界寺』(別府大学史学研究叢書、広雅堂1979)  
赤木志津子 「中御門宗忠の子たち」(『新訂増補国史大系月報』48、1966)  
赤木志津子 「官人中御門宗忠」(『日本歴史』292、1973)  
高群逸枝 『平安鎌倉室町家族の研究』(国書刊行会1985)  
松園 斉 「『中右記』と「日記の家」」(『文学』57-6、1989、のち『日記の家』吉川弘文館1997)  
吉田早苗 「藤原宗忠の「除目次第」」(『史学雑誌』93-7、1984)  
戸田芳実 「『中右記』にみる院政期熊野詣」(『日本史研究』191、1978、のち『歴史と古道』人文書院1992)  
関口 力 「『中右記』に見える貴族と日記」(『撰関時代と古記録』吉川弘文館1991)  
小原 仁 「藤原宗忠の来世信仰」(『日本歴史』502、1990)  
松本昭彦 「貴族日記の中の自画像」(『国語国文』62-10、1993)  
杉本 理 「藤原宗忠の国政観について」(『仏教史学研究』33-2、1990)  
松井 茂 「越後国小泉荘と藤原宗忠讓状案」(『八千代国際大学国際研究論集』8-3、1995)  
河野房雄 「白河院政下の任内蔵頭について」(『別大史学論叢』創刊号、1965)  
鷺見等曜 「平安時代末期貴族の『家』」8 『岐阜経済大学論集』18-3、1984)  
高橋秀樹 「院政期貴族の祖先祭祀空間」『日本中世の家と親族』(吉川弘文館1996)  
鈴木理恵 「藤原宗忠の弁官作法 藤原通俊との師弟関係を中心に」(『長崎大学教育学部社会科学論叢』54、1997)  
杉本 理 「院政期貴族社会のネットワークについて 藤原宗忠と他の貴族間の交流を中心に」(『古代文化』51-10、1999)

## 5. 『長秋記』 文献目録

【活字本】

『増補史料大成 長秋記』全2冊（臨川書店）  
「両院熊野御詣記」（『群書類従』）

【影印本】

「皇后宮権大夫源師時卿記」（『歴代残闕日記』臨川書店）  
『冷泉家時雨亭叢書 古記録集』（朝日新聞社）

【日記研究】

田村悦子 「藤原定家書写 長秋記の別本の断簡について」（『美術研究』259、1969）  
北 啓太 「長秋記」（『日本歴史「古記録」総覧』上、新人物往来社、1989）  
西山恵子 「長秋記」（山中裕編『古記録と日記』上、思文閣出版、1993）  
平林盛得 「冷泉家旧蔵『長秋記』『平兵部記』の史料的価値について」（『古記録にみる王朝儀礼』三の丸尚蔵館1994）  
大島幸雄 「『長秋記』の起筆時期について」（『国書逸文研究』29、1996）  
田口和夫 「汲水閑話106 犬の磔 『長秋記』の散楽」（『能楽タイムズ』540、1997）  
石井正敏 「肥前国神崎荘と日宋貿易 『長秋記』長承二年八月十三日条をめぐって」（『古代中世史料学研究』下、吉川弘文館、1998）  
田島 公 「冷泉家旧蔵本『長秋記』紙背文書に見える「高麗」・「渤海」・「東丹国」（上横手雅敬編『中世公武権力の構造と展開』吉川弘文館、2001）

## 6 . 『白河上皇高野御幸記』 文献目録

【活字本】

増補続史料大成 『白河上皇高野御幸記』（臨川書店）

## 7 . 『殿暦』 文献目録

【活字本】

『大日本古記録 殿暦』全5冊（岩波書店）

【影印本】

「知足院関白藤忠実公記」（『歴代残闕日記』臨川書店）

【日記研究】

小山登久 「殿暦の仮名表記に関する一問題」（『ノートルダム清心女子大学紀要』国語国文学編4-1、1980）  
加藤順一 「殿暦」（『日本歴史「古記録」総覧』上、新人物往来社、1989）  
永田和也 「殿暦」（山中裕編『古記録と日記』上、思文閣出版、1993）  
高橋秀樹 「殿暦」（『日本「日記」総覧』新人物往来社、1994）

【記主とその周辺】

村山修一 「藤原忠実について」（『京都女子大学紀要』6、1954）  
赤木志津子 「藤原忠実考」（『古代文化』30-11、1978）  
高群逸枝 「平安鎌倉室町家族の研究」（国書刊行会、1985）  
田村憲治 「藤原忠実と『古事談』」（『中世文学研究』19、1993）  
篠原洋祐 「藤原忠実の言談とその分析」（『愛文』29、1994）  
田村憲治 「藤原忠実の言談」（『中世文学研究』21、1995）  
田村憲治 「中世公家日記と藤原忠実」（『国語国文』65-4、1996）  
後藤昭雄・池上洵一・山根対助校注 『新日本古典文学大系 江談抄・中外抄・富家語』（岩波書店、1997）  
田村憲治 「貴族社会のマナー」（『新日本古典文学大系月報』78、1997）  
田村憲治 「藤原忠実の言談 衣服・管絃をめぐる」（『中世文学研究』24、1998）  
元木泰雄 『藤原忠実』（人物叢書、吉川弘文館、2000）  
元木泰雄 「忠実の微笑み」（『本郷』28、2000）  
上杉和彦 「藤原忠実の言談をめぐる一、二の問題」（『朱』45、2002）  
奥田静代 「『殿暦』から見る藤原忠実の愛染王信仰」（『国文論叢』34、2004）

## 8 . 『永昌記』 文献目録

【活字本】

『増補史料大成 水左記・永昌記』(臨川書店)

【影印本】

『陽明叢書 記録篇17 平記・大府記・永昌記・愚昧記』(思文閣出版)

【日記研究】

関口 力 「永昌記」(『日本歴史「古記録」総覧』上、新人物往来社、1989)

【記主とその周辺】

高群逸枝 『平安鎌倉室町家族の研究』(国書刊行会、1985)

荒木 浩 「為隆と顕隆 勸修寺流藤原氏と『続古事談』」(『語文』79、2002)

## 9. 『法性寺殿御記』文献目録

【活字本】

『図書寮叢刊 九条家歴世記録1』(明治書院)

尾上陽介 「東山御文庫本『除目部類記』所引『法性寺殿御記』『中右記』逸文」(『禁裏・公家文庫研究』2 思文閣出版、2006)

【影印本】

「法性寺関白藤忠通公記」(『歴代残闕日記』臨川書店)

宮内庁書陵部編 『法性寺殿御記』(コロタイプ複製、八木書店、1989)

【日記研究】

吉田早苗 「『春除目抄』にみえる『法性寺関白記』逸文」(『東京大学史料編纂所報』18、1984)

【記主とその周辺】

橋本不美男 「忠通と顕季」(『国文学』12-10、1967)

高群逸枝 『平安鎌倉室町家族の研究』(国書刊行会、1985)

渡辺晴美 「忠通家歌壇形成に関する考察 先行歌壇との関連について」(『和歌文学研究』51、1985)

渡辺晴美 「藤原忠通研究 その結婚をめぐる」(『立正大学国語国文』29、1993)

大木正義 「今鏡の表現 藤原忠通」(『宇都宮大学教育学部紀要』50、2000)

宮川裕隆 「保元物語の忠通」(『日本文芸研究』52-4、2001)

## 10. 『朝隆卿記』文献目録

【影印本】

「冷泉中納言藤朝隆卿記」(『歴代残闕日記』臨川書店)

【日記研究】

木本好信 「『朝隆卿記』と藤原朝隆」(『芸林』34-1、1985)

## 11. 『知信朝臣記』文献目録

【活字本】

増補史料大成 『知信朝臣記』(臨川書店)

【影印本】

「中宮大進平知信朝臣記」(『歴代残闕日記』臨川書店)

陽明叢書 『平記・大府記・永昌記・愚昧記』(思文閣出版)

## 12. 『兵範記』文献目録

### 【活字本】

史料通覧『兵範記』全2冊(内外書籍)  
増補史料大成『兵範記』全五冊(臨川書店)  
『日記が開く歴史の扉』京都大学総合博物館2003

### 【影印本】

陽明叢書『人車記』全4冊(思文閣出版)  
京都大学史料叢書『兵範記』1~3(思文閣出版)  
「洞院兵部卿平信範卿記鈔出」(『歴代残闕日記』臨川書店)  
『冷泉家時雨亭叢書 古記録集』(朝日新聞社)

### 【索引】

兵範記輪読会編『兵範記人名索引』1~3(『立命館文学』別巻)

### 【日記研究】

星野恒「歴世記録考 兵範記」(『史学叢説』第1集、富山房1909)  
西田直二郎「兵範記に就いて」(『史林』1-3、1916)  
田山信郎「記録」『岩波講座日本歴史』(岩波書店1935)  
辻彦三郎「藤原定家の『平兵部記』書写年代考」(『高橋隆三先生喜寿記念古記録の研究』続群書類従完成会1970)  
吉田早苗「京都大学附属図書館所蔵『兵範記』紙背文書にみられる申文」(『東京大学史料編纂所報』14、1980)  
米田雄介「兵範記と近衛基熙」(『日本歴史』433、1984)  
杉橋隆夫「『人車記』とその周辺」(『陽明叢書記録文書篇月報』13、1986)  
五味文彦「紙背の信範、晩年の信範」(『陽明叢書記録文書篇月報』16、1987、のち『平家物語、史と説話』)  
吉田早苗「『兵範記』紙背文書にみえる官職申文」(『東京大学史料編纂所報』23・24、『東京大学史料編纂所研究紀要』1、1989~91)  
元木泰雄「兵範記」(『日本歴史』古記録総覧』上、新人物往来社、1989)  
高橋秀樹「兵範記」(『古記録と日記』上、思文閣出版1993)  
平林盛得「冷泉家旧蔵『長秋記』『平兵部記』の史料的価値について」(『古記録にみる王朝儀礼』三の丸尚蔵館1994)  
今江広道「陽明文庫所蔵『兵範記』断簡所見日食記事とその年次」(『日本歴史』564、1995)  
関口力「藤原定家筆『兵範記』切 定家の古記録学」(『土車』83、1997)  
上横手雅敬「兵範記と平信範」(『日記が開く歴史の扉』京都大学総合博物館2003)  
石田実洋「武田科学振興財団杏雨書屋所蔵『兵範記』について」(『日本歴史』676、2004)  
井上幸治「延宝五年の『兵範記』分与について」(『立命館文学』585、2004)  
宮崎肇「藤原定家書写『兵範記』紙背文書中にみえる『平家物語』関係文書について」(『汲古』56、2009)

### 【記主とその周辺】

長谷川端「保元の乱と兵範記」(『国文学解釈と教材の研究』21-11、1976)  
野場喜子「『兵範記』にみる食器」(『名古屋市博物館研究紀要』11、1988)  
高橋秀樹「院政期貴族の祖先祭祀空間」(『日本中世の家と親族』吉川弘文館1996)  
勝浦令子「家と家族 平信範とその家族を中心に」(『院政期文化論集5 生活誌』森話社、2005)

## 13. 『台記』文献目録

### 【活字本】

史料大観『台記』全2冊(哲学書院)  
増補史料大成『台記』全3冊(臨川書店)  
史料纂集『台記』1(続群書類従完成会)  
尾上陽介・藤原重雄「東京大学史料編纂所所蔵『台記』仁平三年冬記」(『東京大学史料編纂所研究紀要』16)

### 【影印本】

宮内庁書陵部『台記 保延5年夏・仁平2年秋(九条家本)』2巻(コロタイプ複製、便利堂)  
『冷泉家時雨亭叢書 古記録集』(朝日新聞社)

### 【索引】

大島幸雄編『台記人名索引』(私家版)

【日記研究】

- 広池千九郎「史料大観台記解題の弁解」(『史学雑誌』9-6、1898)  
星野 恒「歴世記録考 台記・台記別記・宇槐記抄・台記抄」(『史学叢説』第1集、富山房、1909)  
小島小五郎「台記管見」(『史学研究』6-2、1934)  
橋本義彦「中右記と台記」(『国文学解釈と鑑賞』37-4、1972、のち『平安貴族社会の研究』)  
橋本義彦「台記」(『日本歴史「古記録」総覧』上、新人物往来社、1989)  
小川 彰「台記」(『古記録と日記』上、思文閣出版1993)  
高橋秀樹「歴史記録への招待16 『台記』」(『歴史読本』2000年4月号)  
山口真琴「言談の背後 『台記』鳥羽院叡山御幸記事より」(『院政期文化論集』2、森話社、2002)  
原水民樹「『台記』注釈(久寿二年四月)」(『言語文化研究』10、2003)  
小野泰央「台記と漢籍 文に融合する引用について」(『日記文学研究誌』5、2003)  
原水民樹「『台記』注釈(久寿二年五月、六月)」(『言語文化研究』11、2004)  
原水民樹「『台記』注釈(久寿二年七月～九月)」(『言語文化研究』12、2005)

【記主とその周辺】

- 小島小五郎『公家文化の研究』(育芳社1942)  
岩橋小弥太「悪左府伝」(『国学院雑誌』55-1、1954)  
橋本義彦『藤原頼長』(人物叢書、吉川弘文館1964)  
貫 達人「藤原頼長」(『人物・日本の歴史3 王朝の落日』読売新聞社、1966)  
栃木考雄「歴史の背反 頼長」(『国文学解釈と教材の研究』21-11、1976)  
東野治之「日記にみる藤原頼長の男色関係 王朝貴族のウィタ・セクスアリス」『ヒストリア』84、1979)  
原水民樹「凶臣頼長の僭上 「保元物語」の一立場」(『徳島大学学芸紀要(人文科学)』32、1982)  
五味文彦「院政期政治史断章」(『院政期社会の研究』山川出版社、1984)  
松園宣郎「『今鏡』の人物 頼長寸考」(『東洋大学短期大学紀要』18、1987)  
鶴田 泉「保元の乱と南都 頼長・尋範・恵信を中心に」(『日本歴史』492、1989)  
澤野 泉「中世貴族の見た夢の世界 『台記』を題材として」(『史艸』31、1990)  
棚橋光男「転形期の王権 後白河論序説」(『講座前近代の天皇』1、青木書店、1992、のち『後白河法皇』)  
松本昭彦「貴族日記の中の自画像 台記・中右記を中心に」(『国語国文』62-10、1993)  
神田龍身「男色家・藤原頼長の自己破綻 『台記』の院政期」(『王朝の性と身体』森話社、1996)  
田村憲治「藤原忠実の言談 『台記』を通して」(『中世文学研究』22、1996)  
戸川 点「院政期の大学寮と学問状況 藤原頼長の事績を中心に」(『王朝の権力と表象』森話社、1998)  
横内裕人「藤原頼長の因明研究と南都 院政期小乗仏教試論」(『南都仏教』79、2000)  
石田実洋「『天子冠礼儀注』と藤原頼長」(『古文書研究』57、2003)  
謝 秦「頼長と漢学 『台記』より見る」(『鶴山論叢』4、2004)  
田村裕子「藤原頼長と生母 『台記』における「昔人」呼称をめぐる」(『人間文化論叢』8、2006)

## 14. 『教長卿記』文献目録

【活字本】

- 小島裕子「五宮御灌頂記」(阿部泰郎編『仁和寺資料【記録篇】五宮灌頂記』名古屋大学比較人文学研究年報1、2000)

【影印本】

- 「宰相中将藤教長卿記」(『歴代残闕日記』臨川書店)  
阿部泰郎編『仁和寺資料【記録篇】五宮灌頂記』名古屋大学比較人文学研究年報1、2000)

【日記研究】

- 小島裕子「五宮御灌頂記」(阿部泰郎編『仁和寺資料【記録篇】五宮灌頂記』名古屋大学比較人文学研究年報1、2000)

【記主とその周辺】

- 多賀宗隼「参議藤原教長伝」(『史学雑誌』50-4、1939、のちに『論集中世文化史』上)  
岩橋小弥太「藤原教長」(『国語と国文学』1953.12)

高崎由理 「藤原教長年譜」(『立教大学日本文学』56、1976)

## 15. 『山槐記』文献目録

### 【活字本】

増補史料大成 『山槐記』全3冊(臨川書店)

「達幸故実抄」(『群書類従』)

樋口健太郎 「史料紹介 国立歴史民俗博物館所蔵・田中穰氏旧蔵本『山槐記』応保二年三月」(『神戸大学史学年報』22、2007)

### 【日記研究】

星野 恒 「歴世記録考 山槐記」(『史学叢説』第1集、富山房1909)

菊池紳一 「山槐記」(『日本歴史「古記録」総覧』上、新人物往来社、1989)

櫻井陽子 「頼朝の征夷大將軍任官をめぐる『三槐荒涼拔書要』の翻刻と紹介」(『明月記研究』9、2004)

### 【記主とその周辺】

三保サト子 「『貴嶺問答』の構成と編述意図について」(『島根女子短期大学紀要』29・30、1991・2)

三保サト子 「『貴嶺問答』の成立年代について」(『島根女子短期大学紀要』31、1993)

加納重文 「中山忠親 『山槐記』管見」(『古代世界の諸相』晃陽書房、1993、のち『明月片雲無し』)

藤本孝一 「都城拡大論と『山槐記』」(『古代文化』46-9、1994)

## 16. 『平治元年十月記』文献目録

### 【活字本】

吉岡真之 「『平治元年十月記』」(『古代文献の基礎的研究』吉川弘文館、1994)

## 17. 『顕広王記』文献目録

### 【活字本】

曾根研三編 『伯家記録考』(西宮神社社務所)

続史料大成 『伯家五代記』(臨川書店)

高橋昌明・樋口健太郎 「国立歴史民俗博物館所蔵『顕広王記』応保三年・長寛三年・仁安三年巻」(『国立歴史民俗博物館研究報告』139、2008)

### 【影印本】

「白川神祇伯顕広王記」(『歴代残闕日記』臨川書店)

### 【日記研究】

『田中穰氏旧蔵典籍古文書目録[文書・記録類編]』(国立歴史民俗博物館、2000)

## 18. 『玉葉』文献目録

### 【活字本】

『玉葉』全3冊(名著刊行会)

図書寮叢刊 『九条家本玉葉』(明治書院)

「玉葉断簡」(多賀宗隼 『玉葉索引』吉川弘文館)

高橋貞一 『訓読玉葉』(高科書店)

### 【影印本】

山本信吉・橋本初子 「『玉葉』治承三年記(東宝記紙背玉葉写本断簡)」『国宝東宝記紙背文書影印』下(東京美術)

### 【索引】

多賀宗隼 『玉葉索引』(吉川弘文館1974)

大饗 亮 『玉葉事項索引』(風間書房1991)

山根退助 「『玉葉』平氏人名索引」(『北海学園大学学園紀要』22、1973)  
福田豊彦監修 『吾妻鏡・玉葉データベース CD-ROM版』(吉川弘文館1999)

#### 【日記研究】

- 星野 恒 「歴世記録考 玉葉」(『史学叢説』第1集、富山房1909)  
松本新八郎 「玉葉にみる治承四年」『文学』(1949)  
龍 肅 「柳原本玉葉」(『鎌倉時代』下、春秋社、1957)  
中村敏勝 「古代終末期の政情と「玉葉」の記述内容」(『史林』43-1、1960)  
山本博也 「文治二年五月の兼実宛頼朝折紙について」(『史学雑誌』88-2、1979)  
上杉和彦 「『玉葉』」(『歴史と地理』397、1988)  
多賀宗隼 「玉葉」(『日本歴史「古記録」総覧』上、新人物往来社、1989)  
松園 斉 「『玉葉』と『方丈記』 安元の大火をめぐる」(『国語科通信』88、1993)  
龍福義友 「玉葉」(『日本「日記」総覧』新人物往来社、1994)  
龍福義友 「玉葉を読む」『日記の思考』(平凡社1995)  
曾我良成 「「或人云」・「人伝云」・「風聞」の世界 九条兼実の情報ネット」(『年報中世史研究』21、1996)  
石田祐一 「玉葉の歪み」(『日本歴史』583、1996)  
上杉和彦 「歴史物語と記録 玉葉」(『歴史物語講座』7、風間書房1998)  
田村憲治 「公家日記における説話的世界 『玉葉』を通して」(『中世文学研究』25、1999)  
古澤直人 「『玉葉』にみえる「謀叛」用例について」(『名古屋芸術大学紀要』20、1999)  
高橋秀樹 「歴史記録への招待17 『玉葉』」(『歴史読本』2000年5月号)  
龍福義友 「平清盛の政治手法寸見 玉葉治承三年十一月十五日条精読」(『明月記研究』6、2001)  
龍福義友 「政治手法の西と東 1・2 源頼朝「天下之草創」の書状精読 上・下」(『愛国学園大学人間文化研究紀要』4・5、2002・3)  
龍福義友 「政治手法の西と東 3・4 源頼朝「天下之草創」と藤原兼実 玉葉文治元年12月27日条精読 上・下」(『愛国学園大学人間文化研究紀要』5・6、2004・5)  
龍福義友 「玉葉の「物議」と「時議」 本文復原への一試行」(『史学雑誌』114-1、2005)  
細川兼睦 「『玉葉』に頻出する「或人云」に関する一考察」(『愛知学院大学教養部紀要』51-3、2005)  
高橋秀樹 「玉葉を読む」(『古記録入門』東京堂出版、2005)  
龍福義友 「政治手法の西と東 5 なかじきり」(『愛国学園大学人間文化研究紀要』8、2006)  
石丸熙 「九条兼実はどのようにして情報を集めたか 『玉葉』の内乱に関する記事に見る」(『東海史学』41、2007)  
藤原重雄 「『玉葉』の「図絵春日御社」参詣をめぐる 夢告に注目して」(『巡礼記研究』6、2009)

#### 【記主とその周辺】

- 多賀宗隼 「藤原兼実について」(『日本歴史』246・247・249、1968・9、のち『論集中世文化史』上)  
多賀宗隼 「藤原兼実の兄弟について」(『日本歴史』144、1960、のち『論集中世文化史』上)  
中尾堯 「九条兼実の浄土信仰」(藤井正雄編『浄土宗の諸問題』雄山閣、1978)  
池上洵一 「読書と談話 九条兼実の場合」(『日本文学』昭和55年12月号、1980、のち『説話と記録の研究』所収)  
池上洵一 「口承説話における場と話題の関係 玉葉の場合」(『語文』43、1984、のち『説話と記録の研究』所収)  
高群逸枝 『平安鎌倉室町家族の研究』(国書刊行会1985)  
古山典子 「『玉葉』ノート」(『相模国文』15~18、1988~91)  
野村育世 「皇嘉門院の経営と九条兼実」(『早稲田大学大学院文学研究科紀要別冊』14、1988)  
奥田 環 「九条兼実と意見封事」(『川村学園女子大学研究紀要』1、1990)  
吉井克信 「九条兼実の仏教信仰」(『大谷大学大学院研究紀要』8、1991)  
小池桃子 「『玉葉』にみたる九条兼実の後室構造に関する一考察」(『政治経済史学』222、1985)  
遠城悦子 「『玉葉』における九条兼実と源頼朝の関係」(『法政史学』42、1990)  
遠城悦子 「建久7年の九条兼実「関白辞職」」(『法政史学』46、1994)  
龍福義友 「『玉葉』の源頼朝観」(『文学』2-3、1991)  
西山恵子 「九条兼実の家司をめぐる」(『公家と武家』思文閣出版1995)  
加納重文 「治承の兼実」(『女子大國文』120、1996、のち『明月片雲無し』所収)  
加納重文 「養和・寿永の兼実」(『女子大國文』122、1997、のち『明月片雲無し』所収)  
松島周一 「基房・兼実・皇嘉門院」(『日本文化論叢』5、1997)  
加納重文 「安元までの兼実」(『女子大國文』123、1998、のち『明月片雲無し』所収)  
加納重文 「元暦・文治の兼実」(『女子大國文』124、1998、のち『明月片雲無し』所収)  
北爪真佐夫 「摂政兼実と朝政」『中世初期政治史研究』(吉川弘文館1998)  
加納重文 「九条兼実における家」(『公家と武家2』思文閣出版1999)  
加納重文 「建久の兼実」(『女子大國文』125、1999、のち『明月片雲無し』所収)  
田村憲治 「公家日記における説話的世界 『玉葉』を通して」(『中世文学研究』25、1999)

谷 知子 「九条兼実と源頼朝」(『院政期文化論集1 権力と文化』森話社、2001)  
宮崎康充 「右大臣兼実の家礼・家司・職事」(『書陵部紀要』61、2010)

## 19. 『安倍泰親朝臣記』文献目録

### 【活字本】

『改定史籍集覧24』臨川書店  
『神道大系 論説編16陰陽道』(神道大系編纂会)

### 【影印本】

「陰陽頭安倍泰親朝臣記」(『歴代残闕日記』臨川書店)

### 【日記研究】

齊藤国治 「陰陽頭・安倍泰親の天文記録」(『古天文学の道』原書房、1990)

## 20. 『愚昧記』文献目録

### 【活字本】

高橋昌明編 「『愚昧記』治承元年秋冬記の翻刻と注釈」(『文化学年報』19、2000)  
高橋昌明・森田竜雄編 「『愚昧記』安元三年(治承元)春夏記の翻刻と注釈(上)」(『文化学年報』20、2003)  
東京大学史料編纂所 『大日本古記録 愚昧記』(岩波書店)

### 【影印本】

『陽明叢書 記録篇17 平記・大府記・永昌記・愚昧記』(思文閣出版)

### 【日記研究】

小川剛生 「愚昧記」(『日本「日記」総覧』新人物往来社、1994)  
加茂正典 「伊勢神宮と「天衣」伝承 『愚昧記』嘉応元年二月四日条を中心として」(『皇学館大学神道研究所紀要』12、1996)

## 21. 『吉記』文献目録

### 【活字本】

増補史料大成 『吉記』全2冊(臨川書店)  
高橋秀樹編 『新訂吉記』本文編1～3(和泉書院、2002～2006)

### 【索引】

学習院大学吉記輪読会編 『吉記人名索引』1(1996)  
学習院大学吉記輪読会編 『吉記人名索引』2(2006)  
高橋秀樹編 『新訂吉記』索引・解題編(和泉書院、2008)

### 【日記研究】

星野 恒 「歴世記録考 吉記・吉部秘訓抄」(『史学叢説』第1集、富山房1909)  
佐藤勝男 「吾妻鏡養和元年三月十日条と吉記」(『ぐんしょ』1-9、1962)  
武久 堅 「平家物語と経房の『吉記』」(『広島女学院大学論集』22、1972、のち『平家物語成立過程考』おうふう1986)  
平田俊春 「百鍊抄と吉記との関係について」(『防衛大学校紀要』27、1973、のち『私撰国史の批判的研究』国書刊行会1982)  
平田俊春 「百鍊抄と吉部秘訓抄」(『立正史学』47、1980、『私撰国史の批判的研究』国書刊行会1982)  
菊池紳一 「吉記」(『日本歴史「古記録」総覧』上、新人物往来社、1989)  
平田俊春 「平家物語と吉記との関係」(『平家物語の批判的研究』上、国書刊行会1990)  
平田俊春 「平家物語の全編年記事と百鍊抄」(『平家物語の批判的研究』中、国書刊行会1990)  
原水民樹 「『吉記』寿永三年四月十五日条の読み 崇徳院・頼長奉祀に係わる一問題」(『日本文学』48-11、1999)  
竹居明男・吉沢陽 「『吉記』逸文承安五年(安元元年)六月十六日条をめぐって 蓮華王院惣社、ならびに同社勧請の二十一社を中心とした諸社の本地仏に関する重要史料」(『文化史学』57、2001)

高橋秀樹 「藤原経房の『公事問答記』について」(『いずみ通信』29、2002)  
高橋秀樹 「平松家本『吉記』とその紙背文書について」(『日本中世史の再発見』吉川弘文館2003)  
橋口晋作 「『平家物語』と『吉記』 依拠関係から『平家物語』を見る」(『人文』27、2003)

【記主とその周辺】

中村直勝 「勸修寺家領に就いて」(『紀元二千六百年記念史学論集』1939、のち『中村直勝著作集』4、淡交社1978)  
橋本義彦 「勸修寺流藤原氏の形成とその性格」(『日本古代史論集』下吉川弘文館1962、のち『平安貴族社会の研究』吉川弘文館1976)  
高群逸枝 「平安鎌倉室町家族の研究」(国書刊行会1985)  
森 幸夫 「伊豆守吉田経房と在庁官人北条時政」(『ぐんしょ』3-2、1990)  
高橋秀樹 「中世前期の祖先祭祀と二つの「家」」(『日本史研究』531、1994、のち『日本中世の家と親族』吉川弘文館1996)  
清水真澄 「勸修寺家の「自画像」」(『緑岡詞林』19、1995)  
村井俊司 「式子内親王の後見 吉田経房を中心として」(『中京国文学』14、1995)  
中村 文 「文治二年十月経房家歌合をめぐる」(『和歌文学の伝統』角川書店1997)  
加藤志保 「吉田経房素描」(『国文』88、1998)  
鈴木理恵 「公事作法をめぐる藤原経房のネットワーク(上・下)」(『長崎大学教育学部社会科学論叢』61・62、2002・2003)  
中川敦之 「中世貴族の別業と「氏寺」 勸修寺流藤原氏経房門流の吉田領と浄蓮華院について」(『文化史学』65、2009)

## 22. 『仲資王記』文献目録

【活字本】

曾根研三編 『伯家記録考』(西宮神社社務所)  
続史料大成 『伯家五代記』(臨川書店)

【日記研究】

『田中穰氏旧蔵典籍古文書目録[文書・記録類編]』(国立歴史民俗博物館、2000)

### 補1 『禅中記』文献目録

【日記研究】

後藤丹治 「禅中記の研究」(『芸文』16-6、1925、のち『戦記文学の研究』筑波書店1936)  
関口祐未 「『禅中記』伝存の経緯」(『文学研究論集(明治大学)』18、2003)

【記主とその周辺】

中村 文 「能吏の孤独 藤原長方伝素描」(『叢書想像する平安文学6 家と血のイリュージョン』勉誠出版、2001)

### 補2 『愚葉記』文献目録

【活字本】

宮崎康充 「『愚葉記目録』」(『書陵部紀要』60、2009)

### 補3 『定長卿記』文献目録

【活字本】

菊池大樹 「「文治四年後白河院如法経供養記」について 新出『定長卿記』の翻刻と研究」(『東京大学史料編纂所研究紀要』12、2002、のち『中世仏教の原形と展開』吉川弘文館2007)

### 補4 『宸筆御八講記』文献目録

【活字本】

井原今朝男・国学院大学院生ゼミグループ「中世禁裏の宸筆御八講をめぐる問題と「久安四年宸筆御八講記」」  
(『国立歴史民俗博物館研究報告』160、2010)